

平成22年8月期(第47期)

# 決算説明会

- I. エグゼクティブサマリー
- II. 平成22年8月期 決算概要
- III. 当期施策と成果
- IV. 次期(平成23年8月期)の見通し
- V. 参考資料

本資料は平成22年8月31日現在のデータに基づいて作成されております。本資料に記載された意見や予測等は、資料作成時点の当社の判断であり、予告なしに変更されることがあります。



株式会社サダマツ

(証券コード: 2736)

〒153-0061

東京都目黒区中目黒2丁目6番20号

京急建設イマビル2階

TEL:03-5768-9957 FAX:03-5768-9958

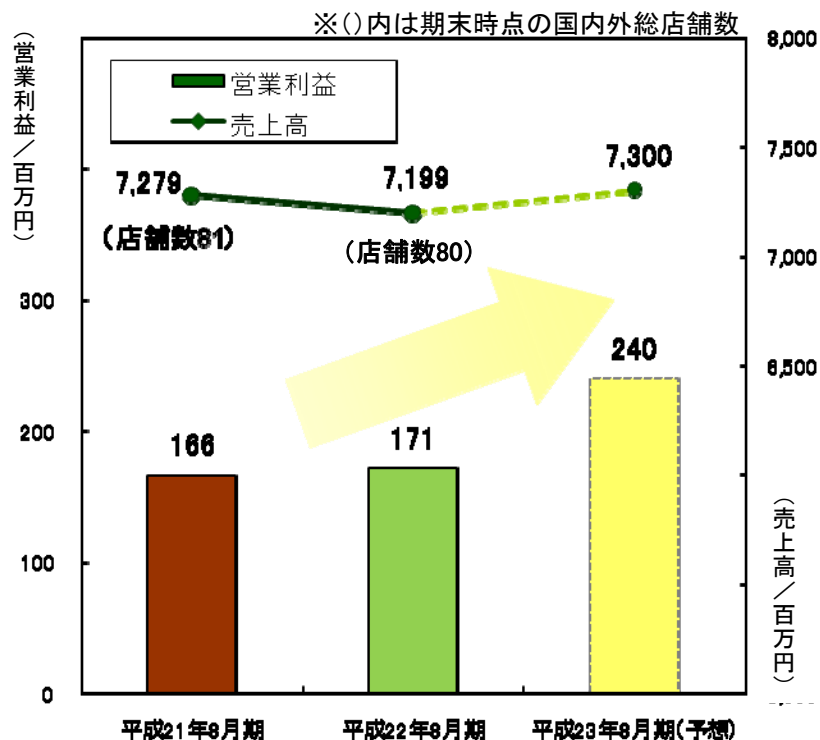
<http://www.sadamatsu.com>

JASDAQ

当期(平成22年8月期)は...

**消費環境の厳しさが続く中、業績予想値水準の売上高を維持し、  
利益面においては前年実績を上回りました。**

### 実績推移と次期業績見込み



次期(平成23年8月期)は...

改善傾向にある営業利益率(対売上高)のさらなる向上のため、引き続き「バリュー・イノベーション」×「全体最適」を基軸とした経営戦略の着実な実践を重ねていく。ローコストオペレーション体質の継続推進と合せ、安定的な営業利益・経常利益の確保を目指す。

### <経営成績>

連結	平成21年 8月期	売上 構成比	平成22年 8月期	売上 構成比	前期比 増減率	増減額
売上高	7,279	100.0%	7,199	100.0%	-1.1%	-80
売上総利益	4,257	58.5%	4,219	58.6%	-0.9%	-38
販売費及び 一般管理費	4,090	56.2%	4,047	56.2%	-1.1%	-43
営業利益	166	2.3%	171	2.4%	3.0%	5
経常利益	79	1.1%	104	1.4%	31.8%	25
税引前 純利益	25	0.3%	91	1.3%	264.0%	66
純利益	-20	-0.3%	7	0.1%	-	27

(単位:百万円)

平成23年8月期 (予想値)	売上 構成比
7,300	100.0%
4,300	58.9%
4,060	55.6%
240	3.3%
180	2.5%
160	2.2%
30	0.4%

## Ⅱ.平成22年8月期 決算概要

# 1. 連結経営成績(前期との比較)

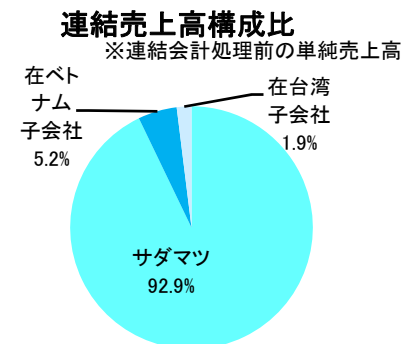
子会社との連携強化は進んだものの、  
グループ業績は依然として親会社が牽引する体制となりました。

## 連結経営成績の推移

(単位:百万円)

連結	平成21年 8月期	売上 構成比	平成22年 8月期	売上 構成比	前期比 増減率	増減額
売上高	7,279	100.0%	7,199	100.0%	-1.1%	-80
売上総利益	4,257	58.5%	4,219	58.6%	-0.9%	-38
販売費及び 一般管理費	4,090	56.2%	4,047	56.2%	-1.1%	-43
営業利益	166	2.3%	171	2.4%	3.0%	5
経常利益	79	1.1%	104	1.4%	31.8%	25
税引前 純利益	25	0.3%	91	1.3%	264.0%	66
純利益	-20	-0.3%	7	0.1%	-	27

在ベトナム子会社の生産拠点としての機能強化や、在台湾子会社における販売員育成のための教育強化など、諸施策の成果は段階的に見られるものの、連結グループ間のシナジー効果は発展途上で潜在的。



世界的な為替変動リスクの影響で、為替差損が16百万円発生。

在台湾子会社の既存百貨店内店舗は、売上高前期比で大幅増加。

在ベトナム子会社の生産本数は前期比20%減。

地金の価格高騰を受け、売上原価が予想値を上回ったものの、売上総利益率は前期水準を維持。

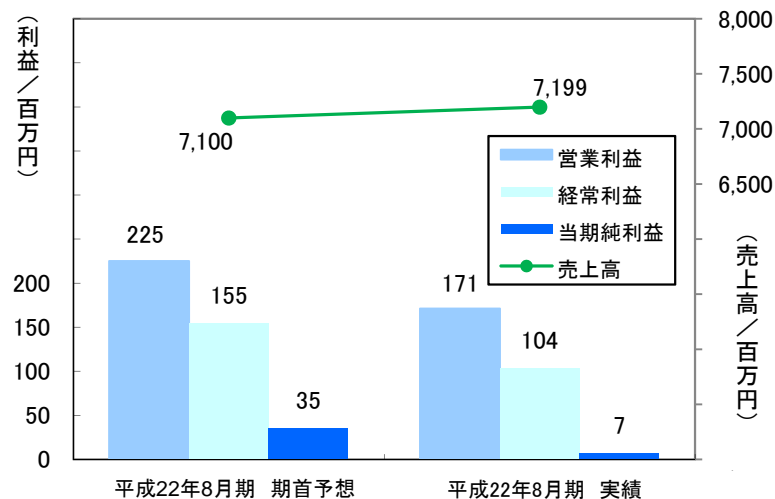
## 2. 連結経営成績(予想との比較)

売上高は予想水準を維持し、利益面では低価格志向への対応や  
原材料費の上昇により圧迫され、予想数値を下回りました。

### 当初予想に対する連結業績

(単位:百万円)

連結	平成22年8月期 期首予想	平成22年8月期 実績	増減
売上高	7,100	7,199	99
営業利益	225	171	-54
経常利益	155	104	-51
純利益	35	7	-28



消費マインドが停滞するなか、教育プログラムの導入の効果により  
売上高は予想水準を維持。

需要喚起のための販売施策強化により、販売費が増加。

在ベトナム子会社の活用による製造原価低減は、地金の高騰などの  
外部要因もあり効果不十分。

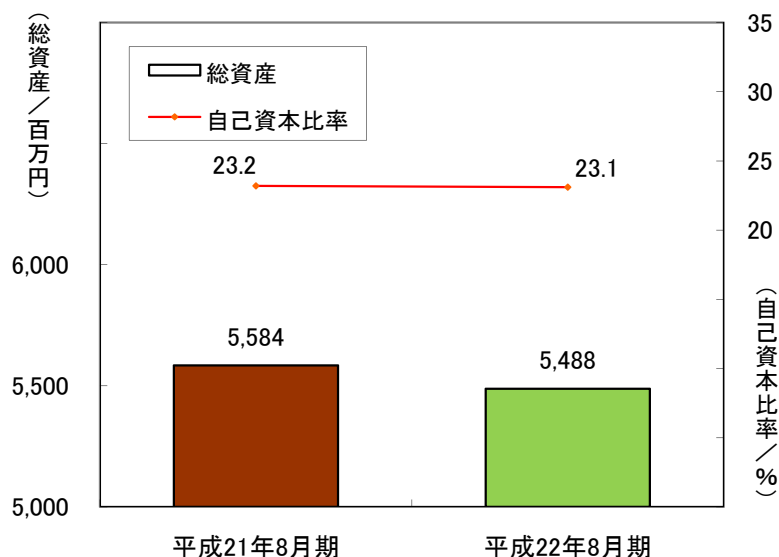
### 3. 連結業績(財政状態)

当期純利益7百万円の増加や、利益剰余金の配当金等による  
15百万円減少などがあり、純資産は1,272百万円となりました。

連結貸借対照表

(単位:百万円)

連結		平成21年8月期	平成22年8月期	増減額
資産	流動資産	4,318	4,318	0
	固定資産	1,264	1,169	-95
	繰延資産	0	0	0
	合計	5,584	5,488	-95
負債	流動負債	3,340	3,599	259
	固定負債	947	615	-332
	合計	4,288	4,215	-72
純資産	株主資本	1,321	1,307	-14
	評価・換算差額等	-26	-38	-12
	合計	1,295	1,272	-23
負債純資産合計		5,584	5,488	-95



第2四半期で一時的に増加した「商品及び製品」の資産額は、期中で調整を行い、前期比2.6%の増加で着地。

総資産額は前期比で95百万円減少ながら、自己資本比率はほぼ同水準を維持。

不振店閉鎖や都市型百貨店型店舗への移行により、差入保証金が前期比74百万円減少。

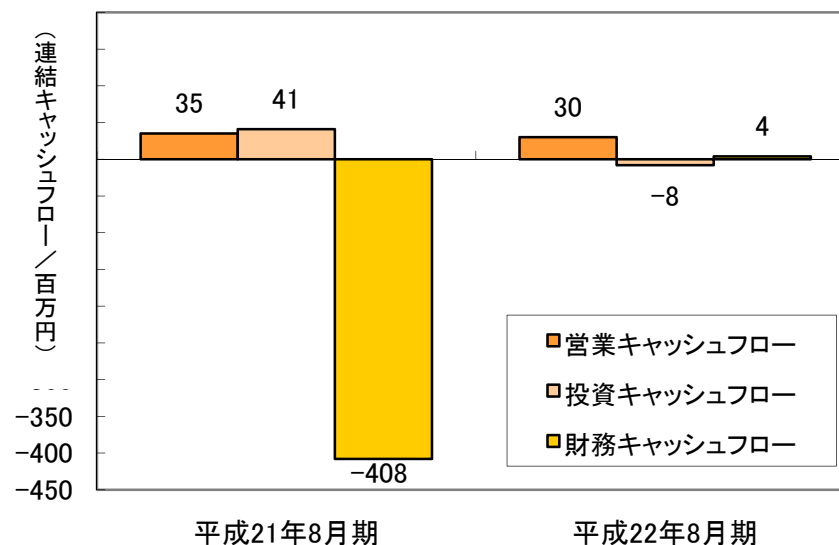
## 4. 連結キャッシュフローの概要

営業活動により30百万円を得て、投資活動により8百万円を使用し、  
財務活動で4百万円の資金を得た結果、残高は1,187百万円となりました。

### 連結キャッシュフローの状況

(単位:百万円)

連結	平成21年8月期	平成22年8月期	増減額
営業 キャッシュフロー	35	30	-5
投資 キャッシュフロー	41	-8	-49
財務 キャッシュフロー	-408	4	412
現金及び現金同等 物に係る換算差額	-5	-1	4
現金及び現金同等 物の増減額	-336	24	360
現金及び現金同等 物の期首残高	1,499	1,162	-337
現金及び現金同等 物の期末残高	1,162	1,187	25



営業キャッシュフローは、「たな卸資産」の増加があったものの黒字を維持。

投資キャッシュフローは、店舗形態の整備・統合などに伴う有形固定資産の取得などの支出が増加。

財務キャッシュフローでは、不安定な市況の流動性に備え資金を確保。

## 5. 個別経営成績

既存の販売ノウハウへの原点回帰と、店舗形態(ショップブランド)の整備・統合施策により、厳しい市況下で売上を構築しました。

### 個別経営成績の推移

(単位:百万円)

個別	平成21年 8月期	売上 構成比	平成22年 8月期	売上 構成比	前期比 増減率	増減額
売上高	7,164	100.0%	7,149	100.0%	-0.2%	-15
売上総利益	4,142	57.8%	4,124	57.7%	-0.4%	-18
販売費及び 一般管理費	3,987	55.7%	3,942	55.1%	-1.1%	-45
営業利益	155	2.2%	182	2.5%	17.7%	27
経常利益	65	0.9%	105	1.5%	61.4%	40
税引前純利益	-3	0.0%	83	1.2%	-	86
純利益	-29	-0.4%	-2	0.0%	-	27

不透明な経済環境のもと、店舗数増加による売上拡大ではなく、1店舗および1従業員あたりの生産性向上に重点を置いた販売施策を推進した結果、売上高は前期と同水準となり、期首に掲げた業績予想値(6900百万円)を達成。

店舗形態(ショップブランド)の整備・統合による店舗運営の効率化。

教育強化により都市型百貨店型店舗の販売スキルとマインドが向上。

都市型百貨店型の商品・ブランド施策のシャワー効果により、地方郊外型店舗の集客力向上に寄与。

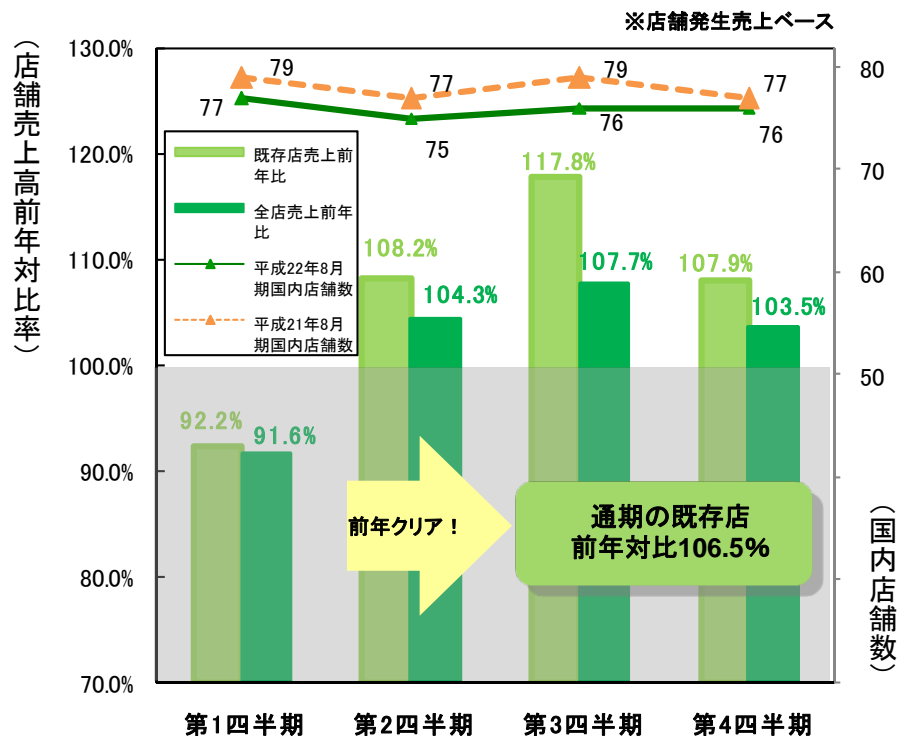
各種販売施策への費用投下は業務効率化によるコスト削減でカバー。

## Ⅲ. 当期施策と成果

# 1. 国内売上高の状況

国内既存店における第2四半期以降の売上高は、  
すべて前年を上回り、通期では前年比106.5%となりました。

当期の四半期別店舗売上の前年対比(率)



期末時点の国内店舗数は前年からほぼ増減が無い中で、前期より整備している都市型百貨店型店舗への展開など立地政策を主としたインフラや、これまで培ってきた販売及びCRMのノウハウを活用し、安定的な店舗売上高を維持。

販売現場への教育育成プログラムの導入効果が表面化。

広告宣伝活動の強化により認知度と集客性が向上。

不振店舗の閉鎖により、下限の店舗売上高が底上げ。

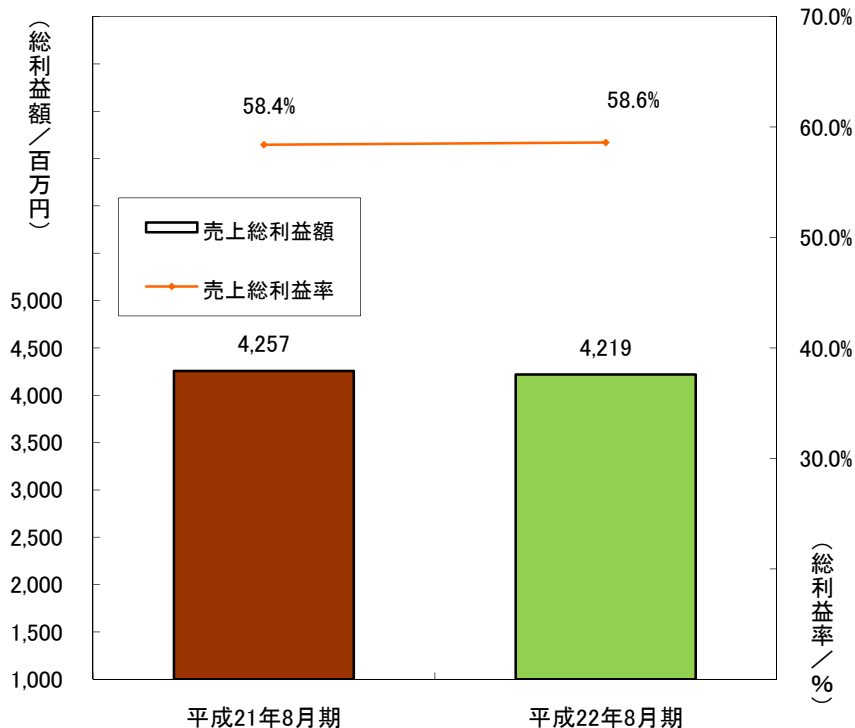
主にSCにおいて店舗形態の変更に伴う商品政策が奏功。

主に都市型既存店舗の増床が実現し、店舗あたりの売上が増加。

## 2. 売上総利益の状況

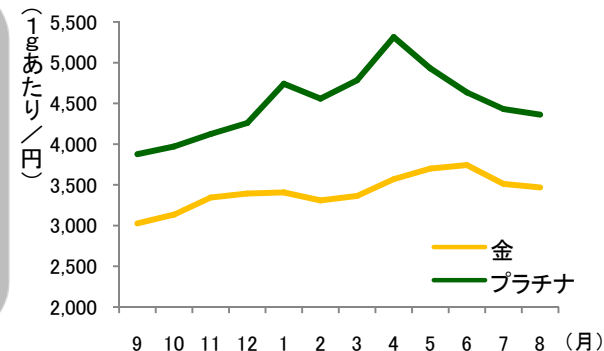
製品原価の低減により、前期同水準の売上高での増益を見込んだものの、売上総利益の額・率ともに前期並みとなりました。

売上総利益の推移



原材料である金・プラチナの価格の段階的な高騰を受け、製品原価が上昇。これにより、期首計画の売上総利益に不達。

当期中の地金価格推移



依然続く消費者の低価格志向が、売上総利益を圧迫。

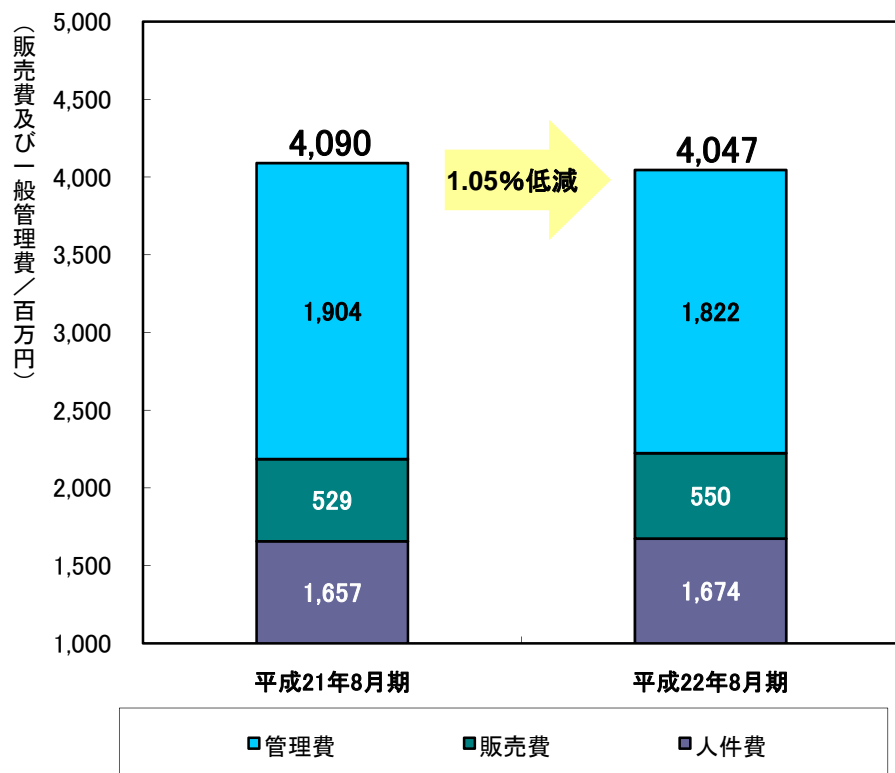
在ベトナム子会社で製品の売上構成比の伸び率は不振。

情報共有や品質管理に一部不備があり、在ベトナム子会社への製品発注の鈍化。

### 3. 販売費及び一般管理費の状況

バリューイノベーション戦略のもと、  
積極的投資とコスト削減が両立しました。

販売費及び一般管理費の前年同期比



販売施策の強化や、教育育成の充実を図る費用を投下したものの、他科目に係る業務の効率化と経費の削減により、販売費及び一般管理費の全体では微減。

基礎販売力の向上に繋がる教育育成プログラムの導入。

在台湾子会社による大型路面店の立ち上げに伴う初期費用の投下。

消費マインド低迷の中、需要喚起の為の販売促進費用を投下。

設備投資の合理化をはかり、リース料等賃借料が低減。

## 4. 営業利益とその他利益の状況

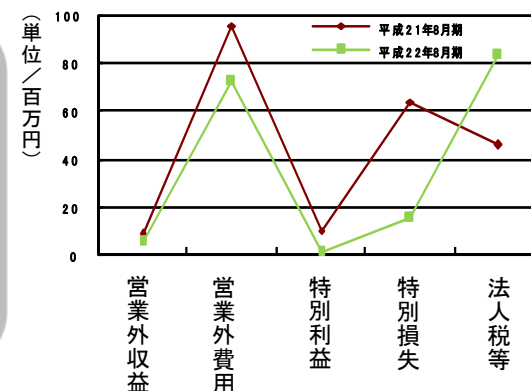
営業利益は前年を上回りました。また法人税等は増加したものの、  
その他本業以外の利益に対する影響額は前期に比べ低減しました。

営業利益およびその他利益の状況

(単位:百万円)

連結	平成21年8月期	平成22年8月期	増減額
営業利益	166	171	5
営業外収益	8	5	-3
営業外費用	96	72	-24
經常利益	79	104	25
特別利益	10	1	-9
特別損失	64	15	-49
税金等調整前 当期純利益	25	91	66
法人税等	46	83	37
当期純利益	20	7	-13

経営管理機能を強化し、営業外費用のコントロールを実践。



営業外費用のうち、為替差損は依然課題。

特別損失のうち、前年大きく影響を及ぼした科目(※1)は発生なし。

※1...投資有価証券評価損・貸倒引当金繰入額・過年度租税公課

## IV.次期(平成23年8月期)の見通し

## 1. 次期の見通しの概要

2年目を迎える新たな経営理念と経営戦略の深耕をはかり、  
当社グループで共有化した施策を推進し、安定的な利益体質を確立する1年に!

## 次期(平成23年8月期)の業績予想

(単位:百万円)

連結	平成22年 8月期	売上 構成比	平成23年 8月期 (見通)	売上 構成比	増減額	前期比 増減率
売上高	7,199	100.0%	7,300	100.0%	101	1.4%
売上総利益	4,219	58.6%	4,300	58.9%	81	1.9%
販売費及び 一般管理費	4,047	56.2%	4,060	55.6%	13	0.3%
営業利益	171	2.4%	240	3.3%	69	40.4%
経常利益	104	1.4%	180	2.5%	76	73.1%
純利益	7	0.0%	30	0.4%	23	328.6%

## 次期(平成23年8月期)共通施策

- ① 店頭におけるプロパー商品の売上構成比の向上による店舗収益の強化
- ② 顧客データの入力・管理・運用を再整備することによるCRMの強化
- ③ 在ベトナム子会社製品での売上構成比の向上によるグループ間相乗効果の追求
- ④ CRMの強化と連動した顧客ニーズの徹底分析によるマーチャンダイジングの強化
- ⑤ 全社各部門で利益に対する意識啓蒙ができる利益重視の業績評価体系の強化
- ⑥ 費用対効果の検証と公表を根付かせる評価制度の確立による経営管理体制の強化
- ⑦ ローコストオペレーションが継続的に維持できるマインド形成と仕組みづくり

国内事業では不況に負けない安定性を、海外事業では成長性を追求する  
グローバル企業を目指し、中長期的な視点で事業戦略を推し進めていきます。

## V.参考資料

# CSR活動(社会への取り組み)

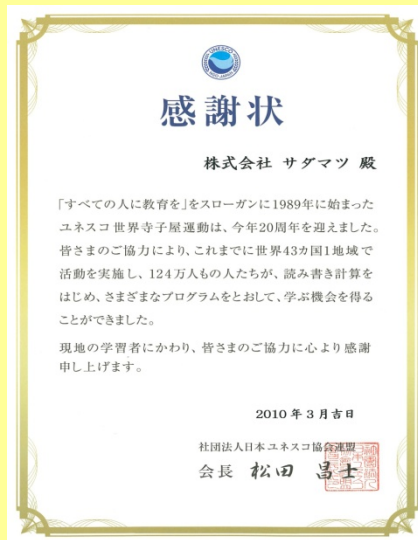
## ジュエリーに愛と夢を込めて 「ビジュュー・ド・ファミリー」

豊かな気持ち、かけがえのない思い出、ずっと持ち続けていたい夢

この経営理念に基づき、私達はジュエリーを通じて様々な関連活動を行っています。

### ●JJA チャイルドピンズ運動

…アジアの子どもたちの識字教育や生活向上のプログラムを支援。



「ユネスコ世界寺子屋運動」への協力に対し、平成22年4月8日、感謝状を受領。

### ●JJA 信頼のマーク認定

…(社)日本ジュエリー協会(JJA)の倫理審査基準を満たしたジュエリー店だけが掲げることのできるマーク。



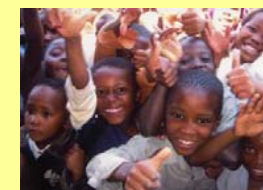
### ●フォーエバーマーク ダイヤモンド 正規取扱店認定

…世界最大のダイヤモンドカンパニー「デビアスグループ」が厳選した、特別なダイヤモンドのみに印される信頼の証。



### ●グローバル・エキスポ参加

…世界最大のダイヤモンド産出国、ボツワナ共和国にて開催されたデビアスグループ主催の世界会議。

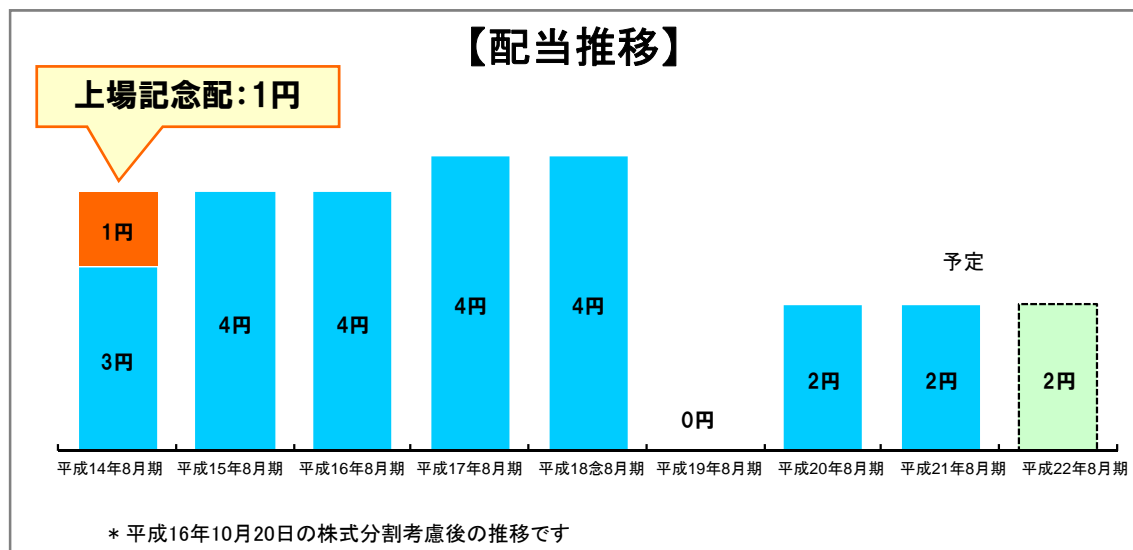


## 配当・株主優待制度

### 配当

（平成22年8月期 予定）

配当金額：**2円00銭**



### 株主優待制度（平成22年8月期）

※優待制度は変更される場合があります

◆対象：平成22年8月31日現在の株主名簿に記載された  
1,000株以上ご保有の株主様

◆優待品 ①・②より、お好きな1点をお選びいただけます。

①10,000円分の弊社お買物優待券。(1,000円券10枚)

②10,000円相当の弊社オリジナルジュエリー（商品名：アステリズム）



2WAYのアレンジがお楽しみいただけます。

# 会社概要

会社名	<b>株式会社サダマツ</b>
本社	東京都目黒区中目黒2丁目6番20号2階 (登記上の本社 長崎県大村市本町458番地9)
資本金	743百万円(平成22年8月31日現在)
従業員数	連結:458人(平成22年8月31日現在)
事業年度	毎年9月1日から翌年8月31日まで
定時株主総会	11月
基準日	8月31日
1単元の株式数	1,000株
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
上場取引所	大阪証券取引所 ジャスダック市場
証券コード	2736

## ～経営理念～

ジュエリーに愛と夢を込めて  
「ビジュード・ファミリーユ」

豊かな気持ち、かけがえのない思い出、ずっと持ち続けていたい夢

ご清聴ありがとうございました。

IRお問い合わせ先  
株式会社サダマツ 社長室  
E-mail [sadamatsu.co@b-sophia.co.jp](mailto:sadamatsu.co@b-sophia.co.jp)  
IRサイト <http://www.b-sophia.co.jp/IR/>

本資料で記述している将来予測および業績予想は、現時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため、様々な要因の変化により実際の業績は記述している将来見通しとは大きく異なる結果となる可能性があることを御承知おき下さい。